



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



Tetsuya KUSAGAWA et al
0445-0317P
10/056,485
1/28/02
BSKB, LLP
(703) 205-8000
1 of 2

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 1月29日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-019330

出 願 人

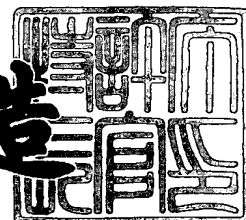
Applicant(s):

花王株式会社

2001年12月 7日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3106675

【書類名】 特許願

【整理番号】 P001041

【提出日】 平成13年 1月29日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 A61F 13/15

【発明者】

【住所又は居所】 栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株式会社研究所
内

【氏名】 草川 哲哉

【発明者】

【住所又は居所】 栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株式会社研究所
内

【氏名】 濱島 美次

【発明者】

【住所又は居所】 栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株式会社研究所
内

【氏名】 野口 仁子

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100076532

【弁理士】

【氏名又は名称】 羽鳥 修

【選任した代理人】

【識別番号】 100101292

【弁理士】

【氏名又は名称】 松嶋 善之

【選任した代理人】

【識別番号】 100112818

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩本 昭久

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013398

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9902363

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 吸収性物品

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液保持性の吸収層、液不透過性の防漏層及び立体ギャザーを備え、該立体ギャザーは、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を有する吸収性物品において、

前記弾性伸縮部の肌当接面に、内部に空洞を有する凸条部が形成されている吸収性物品。

【請求項 2】 前記吸収性物品は、実質的に縦長に形成されており、前記立体ギャザーは、該吸収性物品の長手方向に沿って設けられており、前記凸条部は、それぞれ該吸収性物品の幅方向に延びるように多数形成されている請求項 1 記載の吸収性物品。

【請求項 3】 液保持性の吸収層、液不透過性の防漏層及び立体ギャザーを備え、該立体ギャザーは、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を有する、実質的に縦長に形成された吸収性物品において、

前記立体ギャザーは、前記吸収性物品の長手方向に沿って設けられており、

前記弾性伸縮部の肌当接面に、前記吸収性物品の幅方向に延びる凸条部が多数形成されている吸収性物品。

【請求項 4】 前記弾性伸縮部は、シート材と弾性部材とからなり、該弾性伸縮部には、該シート材と該弾性部材とが接合された接合部と、該シート材と該弾性部材とが接合されていない非接合部とが交互に形成されており、前記凸条部は、該非接合部における該シート材により形成されている請求項 1～3 の何れかに記載の吸収性物品。

【請求項 5】 前記シート材と前記弾性部材とが接合された接合部の幅が 0 . 5 ～ 1 0 m m であり、隣接する接合部同士間の幅が 1 ～ 2 0 m m である請求項 4 記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を備えた生理用ナプキン、失禁パット、パンティライナー等の吸収性物品に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

従来、立体ギャザーを備えた生理用ナプキン等の吸収性物品において、立体ギャザーに、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を有するものが知られている。

しかし、従来のものは、立体ギャザーの着用者の肌に当たる感触が、必ずしも良好ではなかった。例えば、ゴワゴワしていたり、クッション性に劣るものが多かった。着用者の肌に当たる感触を向上させるためには、立体ギャザーに配設する弾性部材の本数や伸長率を調整することなどが考えられるが、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を形成したことにより得られる、フィット性や漏れ防止性の向上効果を損なうことなく感触を向上させることは困難である。

また、従来のものは、弾性伸縮部の面形状が安定に保持されず、使用中に弾性伸縮部が縮んだりヨレたりして、フィット性や漏れ防止性の向上効果が得られない恐れがあった。

【 0 0 0 3 】

従って、本発明の第 1 の目的は、立体ギャザーの肌に当たる感触が良好であり、しかもフィット性及び漏れ防止性に優れた生理用ナプキン、失禁パット、パンティライナー等の吸収性物品を提供することにある。

また、本発明の第 2 の目的は、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部が、面の保形性に優れており、フィット性及び漏れ防止性に優れた生理用ナプキン、失禁パット、パンティライナー等の吸収性物品を提供することにある。

【 0 0 0 4 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、液保持性の吸収層、液不透過性の防漏層及び立体ギャザーを備え、該立体ギャザーは、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を有する吸収性物品において、前記弾性伸縮部の肌当接面に、内部に空洞を有する凸条部が形成されている吸収性物品を提供することにより、第 1 の目的を達成したものであ

る（以下、第 1 発明というときは、この発明をいう）。

【 0 0 0 5 】

本発明は、液保持性の吸収層、液不透過性の防漏層及び立体ギャザーを備え、該立体ギャザーは、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を有する、実質的に縦長に形成された吸収性物品において、前記立体ギャザーは、前記吸収性物品の長手方向に沿って設けられており、前記弾性伸縮部の肌当接面に、前記吸収性物品の幅方向に延びる凸条部が多数形成されている吸収性物品を提供することにより、第 2 の目的を達成したものである（以下、第 2 発明というときは、この発明をいう）。

【 0 0 0 6 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明をその好ましい一実施形態に基づいて説明する。

図 1 ～図 3 に示す生理用ナプキン 1 は、第 1 及び第 2 発明それぞれの一実施形態であり、液保持性の吸収層 2、液不透過性の防漏層 3 及び立体ギャザー 4 を備え、実質的に縦長に形成されている。立体ギャザー 4 には、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部 4 0 が形成されている。

【 0 0 0 7 】

吸収層 2 は、平面視において、両端部が円弧状とされた縦長形状を有しており、その上面 2 a を形成する液透過性の表面シート 2 1 と、表面シート 2 1 の下側に配され該表面シート 2 1 を透過した液を吸収して保持する液保持性の吸収体 2 2 とからなる。

【 0 0 0 8 】

防漏層 3 は、液不透過性の裏面シート 3 1 からなり、吸収層 2 と略同形の平面視形状を有する本体部 3 2 と該本体部 3 2 の両側から延出するウイング部 3 3 とを有する。防漏層 3 の本体部 3 2 上には、吸収層 2 が接着剤等の公知の接合手段により固定されており、本体部 3 2 及び一对のウイング部 3 3 の下面側には、それぞれ、粘着剤が塗布されて、ナプキン 1 をショーツ等に固定するための固定部（図示せず）が形成されている。

【 0 0 0 9 】

立体ギャザーは、尿や便、経血等の移動を阻止して、これらの漏れ出しを防止するものである。

本実施形態の生理用ナプキン 1 における立体ギャザー 4 は、図 1 に示すように、ナプキン 1 の長手方向の両側、より具体的には、吸収層 2 の長手方向の両側部に、それぞれ長手方向に沿って一対設けられており、それぞれ、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部 4 0 を有している。

弾性伸縮部 4 0 は、立体ギャザー 4 の長手方向に伸縮性を有しており、ナプキン 1 の着用時には、ナプキン 1 の排泄部（着用者の排泄部に対向配置される部分）T の両側に位置する部分において、着用者の肌に面で当接する。

【 0 0 1 0 】

本実施形態における立体ギャザー 4 は、吸収体 2 2 の左右両側縁それぞれの近傍から起立しており、弾性伸縮部 4 0 と起立部 4 1 とからなる。起立部 4 1 は、その上端部が弾性伸縮部 4 0 の非肌当接面側に一体的に連設されており、その下端部が吸収層 2 の側縁部近傍に固定されている。

立体ギャザー 4 は、それぞれ断面 T 字状に形成されている。即ち、弾性伸縮部 4 0 は、起立部 4 1 の上端部から、ナプキン幅方向の内方及び外方それぞれへ張り出す内方張出部 4 8 及び外方張出部 4 9 とを有している。内方張出部 4 8 及び外方張出部 4 9 はそれぞれ上面が同一平面上に位置するようにほぼ水平方向に張り出している。両張出部 4 8, 4 9 の張り出し幅はほぼ同一となっている。

【 0 0 1 1 】

本実施形態の生理用ナプキン 1 においては、各弾性伸縮部 4 0 の肌当接面 4 a に、内部に空洞 4 2 を有する凸条部 4 3 が多数形成されている。

より具体的に説明すると、多数の凸条部 4 3 は、図 1 に示すように、弾性伸縮部 4 0 の長手方向に所定の間隔で、それぞれナプキン 1 の幅方向に延びるように互いに平行に形成されている。

【 0 0 1 2 】

弾性伸縮部 4 0 は、その長手方向の両端部が、ナプキン 1 の長手方向の両端部近傍に固定されている。

弾性伸縮部 4 0 は、図 3 及び図 4 に示すように、シート材 4 4 と該シート材 4

4 に伸長状態において非連続的に接合された複数本の弾性部材 4 5 とからなり、弾性伸縮部 4 0 には、シート材 4 4 と弾性部材 4 5 とが接合された接合部 4 A と、シート材 4 4 と弾性部材 4 5 とが接合されていない非接合部 4 B とが交互に形成されている。本実施形態における凸条部 4 3 は、弾性部材 4 5 の収縮により、非接合部 4 B におけるシート材 4 4 が、該弾性部材 4 5 から離間するように膨出して形成されている。

本実施形態のナプキン 1 における立体ギャザー 4 は、図 4 に示すように、シート材 4 4 と弾性部材 4 5 とを、シート材 4 4 に間欠的に塗布した接着剤 5 を介して非連続的に接着して立体ギャザー形成用の弾性伸縮部材を製造し、該弾性伸縮部材をナプキンの所定箇所に固定して形成されている。

【 0 0 1 3 】

シート材 4 4 は、図 2 及び図 4 に示すように、弾性伸縮部 4 0 の肌当接面 4 a 側を形成する所定幅の帯状部分 4 4 a の左右両外方に、それぞれ延出部 4 4 b、4 4 b を有しており、各延出部 4 4 b は、長手方向に沿う所定の折り線 P において折り返されて、該弾性伸縮部 4 0 の非肌当接面を形成し、更に両延出部 4 4 b、4 4 b が合流した後下方に垂下して起立部 4 1 を形成している。

このシート材 4 4 における、弾性伸縮部 4 0 の非肌当接面を形成する両延出部 4 4 b は、肌当接面 4 a を形成する所定幅の帯状部分 4 4 a と同様に、弾性部材 4 5 に非連続的に接合されており、これにより、弾性伸縮部 4 0 における非肌当接面側にも、内部に空洞 4 6 を有する多数の凸条部 4 7 が、弾性伸縮部 4 0 の長手方向に所定間隔でそれぞれナプキン 1 の幅方向に延びるように互いに平行に形成されている。尚、弾性伸縮部 4 0 の肌当接面 4 a 側の凸条部 4 3 と非肌当接面側の凸条部 4 7 とは、弾性部材 4 5 が配設されている面に対して対称に形成されている。

【 0 0 1 4 】

弾性伸縮部 4 0 の感触を特に良好なものとする観点及び／又は弾性伸縮部の面形状の保形性を向上させる観点から、シート材 4 4 と弾性部材 4 5 とが接合された接合部 4 A の幅 W 1 は 0. 5 ～ 1 0 mm、特に 1 ～ 5 mm であることが好ましく、隣接する接合部同士間の幅 W 2、即ちシート材 4 4 と弾性部材 4 5 とが接合

されていない非接合部 4 B の幅は 1 ～ 2 0 mm、特に 2 ～ 1 0 mm であることが好ましい。

【 0 0 1 5 】

また、立体ギャザー 4 のフィット性、クッション柔らかさ、弾性伸縮部 4 0 の幅方向の安定性の観点から、凸条部 4 3 は、その平均長さ（弾性伸縮部の幅方向の長さ）が 3 ～ 5 0 mm、特に 1 0 ～ 3 0 mm であることが好ましく、その平均高さが 0. 5 ～ 1 0 mm、特に 1 ～ 5 mm であることが好ましい。凸条部 4 3 の高さ H を、図 3 中に示した。尚、凸条部の長さは、弾性伸縮部の幅方向と平行に形成されている場合には、該凸条部に沿って測定した長さであり、弾性伸縮部の幅方向と平行に形成されていない場合には、該凸条部に沿って測定した長さを、該幅方向と平行な直線上に投影した長さである。

また、立体ギャザーのフィット性、クッション感、弾性伸縮部 4 0 の幅方向の安定性の観点から、凸条部の長さは、弾性伸縮部 4 0 の幅の 3 0 % 以上であることが好ましく、特に 5 0 ～ 1 0 0 % であることが好ましい。

【 0 0 1 6 】

本実施形態のナプキン 1 は、吸収体 2 2 の表面シート 2 1 側に所定形状の防漏溝 2 3 が形成されている。防漏溝 2 3 は、閉じた形状を有しており、詳細には、ナプキン 1 の長さ方向に長軸を有する楕円形に近い形状を有しており且つナプキン 1 の排泄部対向部（ナプキン 1 を長手方向に 3 つの領域に区分した場合の中央の領域であって、前記排泄部を含む領域）A に位置する部分が内方に湾曲している。防漏溝 2 3 は、吸収体 2 2 と表面シート 2 1 とが一体的に圧密化されて形成されている。

【 0 0 1 7 】

内方張出部 4 8 は、少なくともナプキン 1 の排泄部対向部 A、特に排泄部 T の両側に位置する部分において、吸収体 2 2 の上方に位置していることが好ましい。これによって、吸収体 2 2 の側部において、着用者の排泄部から肌を伝って横方向に流れた血液が、内方張出部 4 8 と起立部 4 1 とによって形成されるポケット部 6（図 2 参照）に堰き止められると共に、内方張出部 4 8 の下方に位置する吸収体 2 2 によって素早く吸収され、より一層横漏れ防止効果が高くなる。即ち

、吸収体 22 による液の吸収効果との相乗作用によって一層の防漏効果が発現する。

【0018】

また、内方張出部 48 は、少なくともナプキン 1 の排泄部対向部 A、特に排泄部 T の両側に位置する部分において、防漏溝 23 よりも外方に位置していることが好ましい。これによって、ナプキン 1 の装着状態において、ナプキン 1 の長さ方向に沿う防漏溝 23 が可撓軸となって、該防漏溝 23 よりも外方に位置する吸収体 22 が裏面シート 31 側に折れ曲がり、該吸収体 22 自体の大腿部への密着性が良好となると共に、弾性伸縮部 40（両張出部 48, 49）の上面による面シール効果（着用者の肌に弾性的に且つ面で密着するという効果）も一層向上する。更に、高装着圧下において立体ギャザー 4 が押し潰された場合でも、液が、防漏溝 23 に沿ってナプキンの長さ方向に誘導されるので、立体ギャザー 4 まで液が達しにくく、また達したとしても、その部分には吸収体 22 が存在しているので、液が立体ギャザー 4 を乗り越えて横方向へ漏れ出しにくくなる。一般に、立体ギャザー 4 に液が少量でも付着すると、ナプキン全体がとても汚れた印象を着用者に与え易く、少量の吸収量でナプキンを交換しがちであるという不都合があるが、このような構成とすれば、防漏溝 23 による液の誘導効果によって立体ギャザー 4 まで液が達しにくいことから、そのような不都合は起こりにくい。

【0019】

本実施形態においては、内方張出部 48 及び外方張出部 49 それぞれに、その長さ方向に沿って弾性部材 45 が配されている。また、両弾性部材 45 の伸張率は、両張出部 48, 49 において、ほぼ同様となっている。両張出部 48, 49 それぞれに弾性部材 45 を配することで、着用者の動作に起因して立体ギャザー 4 が内方へ押し倒され易くなる状況においても、外方張出部 49 に配された弾性部材 45 の張力によって立体ギャザー 4 を外方へ傾斜させる力が働き、立体ギャザー 4 が内方へ押し倒されることが効果的に防止され、両張出部 48, 49 の肌への密着度が高く維持される。

【0020】

本実施形態の生理用ナプキンの形成材料について説明すると、表面シート 21

、吸収体 2 2、裏面シート 3 1、弾性伸縮部形成用の、シート材 4 4 及び弾性部材 4 5 としては、それぞれ、生理用ナプキン等の吸収性物品に従来用いられている各種の材料を特に制限なく用いることができる。

【 0 0 2 1 】

弾性伸縮部形成用のシート材 4 4 の形成材料としては、従来サニタリー吸収性物品に使用されている不織布、フィルムやそれらの複合材料等、特に制限はないが、弾性伸縮部の肌への柔らかさ、クッション感、立体ギャザーの防漏性を考慮に入れると、撥水性で耐水圧の高い不織布材料が好ましく使用される。

具体的には、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、もしくはそれら複合材料からなる繊維を、カード法、スパンボンド法、メルトブロー法等で不織布にしたもの等が使用され、より肌触りを重視する場合には、カード法で得たウェブを熱風で接着するサクシオンヒートボンド不織布が好ましく使用され、耐水性を重視する場合には、スパンボンド不織布もしくは SMS 等が好ましく用いられる。

いずれの不織布においても、表面の柔らかさ、耐水性を考慮すると、繊維の太さとしては、3 d t e x 以下の繊維で製造した不織布が好ましく使用される。

また、使用する不織布としては、弾性伸縮部 4 0 の幅方向の形状安定性及び凸条部を安定に形成する為に、予め不織布に凹凸エンボス加工を施したものも好ましく使用できる。

【 0 0 2 2 】

また、弾性伸縮部形成用の弾性部材 4 5 としては、ポリウレタン、天然ゴム、ポリブタジエン、ゴム等の樹脂を、糸状、帯状、フィルム状にしたもの等、伸縮物性を示すものであれば特に制限なく使用する事ができるが、伸縮部材のコスト及び弾性伸縮部材の伸張時の残留歪等を考慮すると、現状では糸ゴム状のものを多列で並べたものが好ましく使用される。

尚、糸状の弾性部材を配する場合には、本実施形態のナプキン 1 のように、複数本の弾性部材 4 5 を、弾性伸縮部 4 0 の幅方向に所定の間隔で配置することが好ましく、特に弾性伸縮部 4 0 の幅方向の全幅に亘る凸条部 4 3 が形成されるように、弾性部材 4 5 の間隔等を設定することが好ましい。

【0023】

本実施形態の生理用ナプキン1は、従来の生理用ナプキンと同様にショーツ等の所定位置に固定して使用することができる。

【0024】

本実施形態の生理用ナプキン1は、弾性伸縮部40の肌当接面4aに、内部に空洞を有する凸条部が形成されているため、弾性伸縮部40は、その感触が柔らかかつ滑らかであり、また、立体ギャザーはクッション性に優れている。そのため、立体ギャザーの着用者の肌に当たる感触は極めて良好であり、身体の非平面的な形状や動きに対しても凸条部が容易に変形し、身体との間に隙間をつくらない立体ギャザーとなる。しかも、優れた感触や装着感を得るために、弾性部材の伸長応力を大きく低減させたりする必要もないので、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部を設けたことによる、フィット性や漏れ防止性の向上効果が損なわれることもない。

【0025】

また、本実施形態の生理用ナプキン1においては、弾性伸縮部40の肌当接面4aに、多数の凸条部43が、それぞれ、ナプキン1の幅方向に延びるように形成されているため、弾性伸縮部40が、面の保形性に優れており、また、長手方向に湾曲し易いため、優れたフィット性及び漏れ防止性が得られる。

即ち、面状の弾性伸縮部は、凸条部が幅方向にわたって長手方向に多数連続に形成されているがゆえに、幅方向の形状安定性（剛性）が増すと共に、長手方向へは凸条部同士間の接着部分が可撓部分となって働く。即ち、長手方向には、多数の可撓部分で湾曲すると共に幅方向の形状安定性が増すために、着用者の股間部で長手方向には身体へ適合し易く、大腿部からの幅方向の圧縮力が加わっても、面状の弾性伸縮部がくしゃくしゃにならずに広い面を維持して股間部にフィットするため、高いモレ防止効果が発現される。

【0026】

尚、本発明の吸収性物品は、上記の実施形態に制限されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しに範囲において種々変形可能である。

例えば、生理用ナプキンの他、失禁パッド、パンティライナー、使い捨ておむ

つ等にも適用可能である。

【0027】

また、第1発明における凸条部は、弾性伸縮部40の長手方向に沿って配されていても良い。例えば縦横両方向に伸長させた所定幅のシート状弾性部材の幅方向に、シート材を非連続に接合し、その後、該弾性部材の伸長状態を解除すれば、長手方向に凸条部が形成された弾性伸縮部を容易に製造することができる。

第1発明において、凸条部を弾性伸縮部40の長手方向に配する場合における該凸条部の本数は、各弾性伸縮部について例えば1～5本とすることができ、凸条部を弾性伸縮部40の幅方向に配する場合における該凸条部の本数は、各弾性伸縮部について例えば5～50本とすることができる。尚、長手方向に凸条部を形成した場合においても、接合部の幅、接合部同士間の幅、凸条部の高さ等の好ましい範囲等は、幅方向に凸条部を形成した場合と同様である。

【0028】

また、第2発明における凸条部の本数は、例えば各弾性伸縮部について1～5本とすることができる。また、第2発明における凸条部は、第2発明の損なわない範囲内において、吸収性物品の幅方向に対してある程度の角度を有していても良い。また、第2発明における凸条部は、内部に空洞を有しないものでも良い。

また、第1及び第2発明における立体ギャザーは、図5に示すような形態のものであっても良い。

【0029】

【発明の効果】

本発明によれば、立体ギャザーの肌に当たる感触が良好であり、しかもフィット性及び漏れ防止性に優れた生理用ナプキン、失禁パット、パンティライナー等の吸収性物品を提供することができる。

また、本発明によれば、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部が、面の保形性に優れており、フィット性及び漏れ防止性に優れた生理用ナプキン、失禁パット、パンティライナー等の吸収性物品を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

図 1 は、本発明の一実施形態としての生理用ナプキンを示す斜視図である。

【図 2】

図 2 は、図 1 の X - X 断面図である。

【図 3】

図 3 は、図 1 の Y - Y 断面図である。

【図 4】

図 4 は、弾性伸縮部におけるシート材と弾性部材との接合態様を説明するための図で、弾性伸縮部形成用の弾性伸縮部材の製造工程において、伸長状態とした弾性部材をシート材に固定する様子を示す図である。

【図 5】

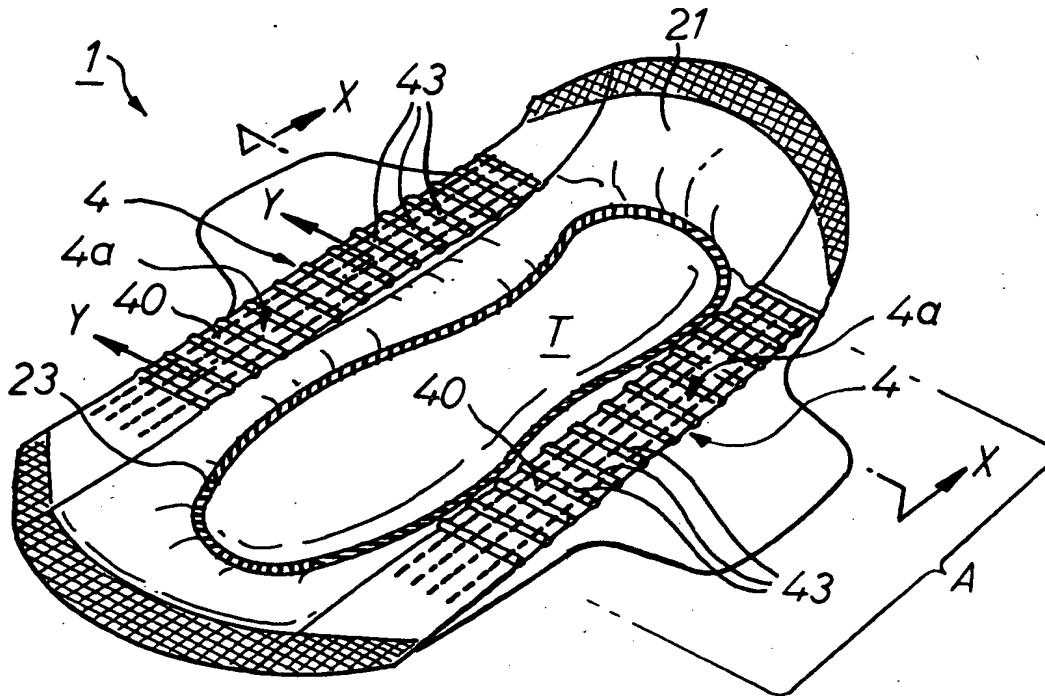
図 5 は、本発明の他の実施形態としての生理用ナプキンを示す断面図である。

【符号の説明】

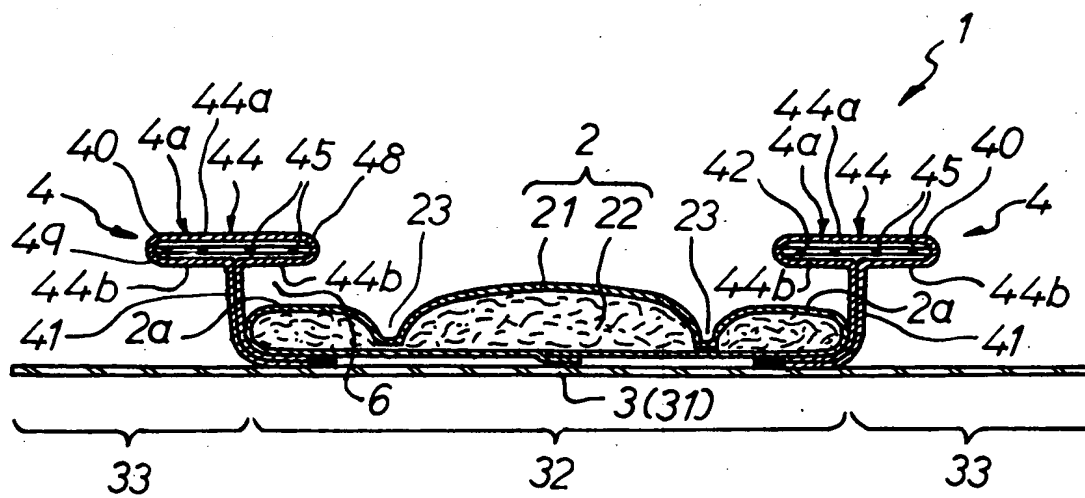
- 1 生理用ナプキン（吸収性物品）
- 2 吸収層
 - 2 1 表面シート
 - 2 2 吸収体
 - 2 a 上面
- 3 防漏層
 - 3 1 裏面シート
- 4 立体ギャザー
 - 4 0 弾性伸縮部
 - 4 1 起立部
 - 4 2 空洞
 - 4 3 凸条部
 - 4 4 シート材
 - 4 5 弾性部材
 - 4 a 肌当接面
- 5 接着剤

【書類名】 図面

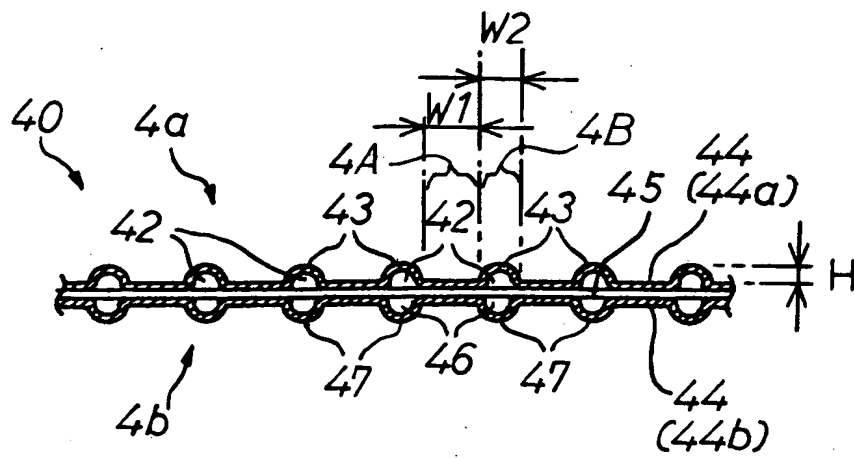
【図1】



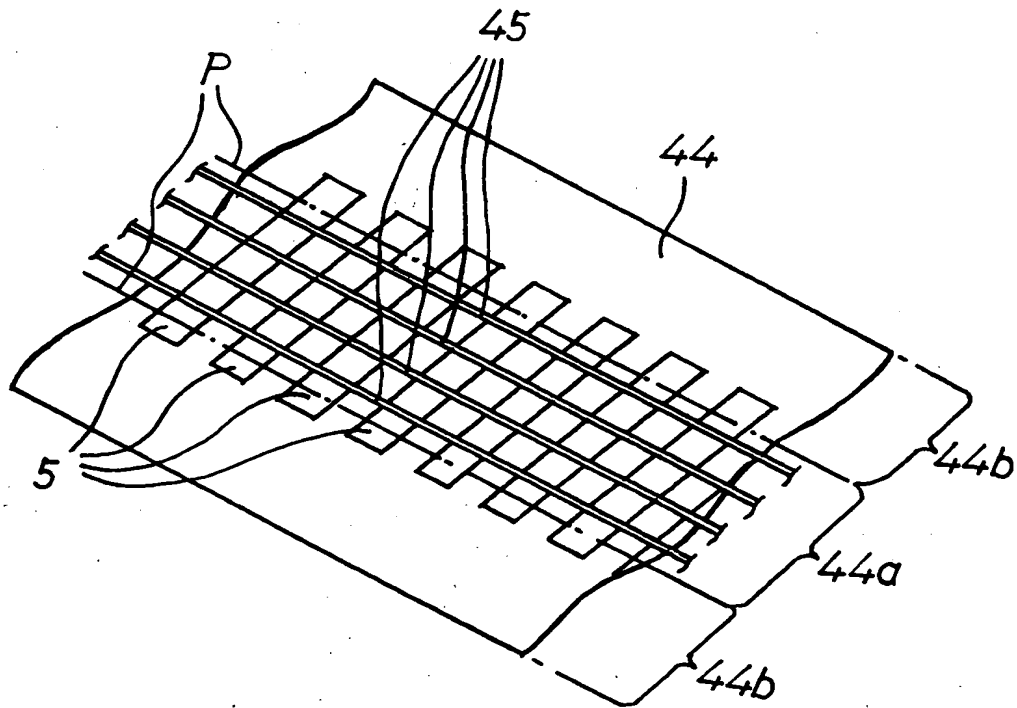
【図2】



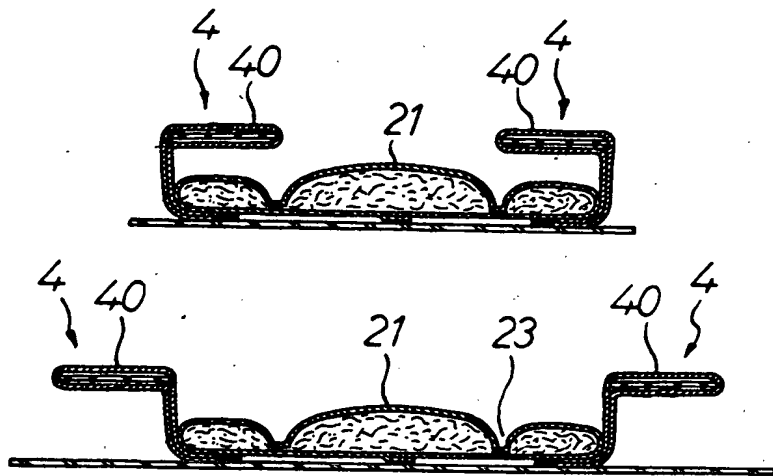
【図 3】



【図 4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 立体ギャザーの肌に当たる感触が良好であり、しかもフィット性及び漏れ防止性に優れた吸収性物品、又は、着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部が、面の保形性に優れており、優れたフィット性及び漏れ防止性が確実に得られる吸収性物品を提供すること。

【解決手段】 液保持性の吸収層 2、液不透過性の防漏層 3 及び立体ギャザー 4 を備え、該立体ギャザー 4 は、着用時に着用者の肌に面で当接する弾性伸縮部 4 0 を有する吸収性物品において、a) 前記弾性伸縮部 4 0 の肌当接面 4 a に、内部に空洞 4 1 を有する凸条部 4 3 が形成されている吸収性物品 1、及び b) 前記弾性伸縮部 4 0 の肌当接面 4 a に、前記吸収性物品 1 の幅方向に延びる凸条部 4 3 が多数形成されている吸収性物品 1。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
氏 名	花王株式会社